

最初に、

合格する論文答案を私なりに定義すると、

『様々な社会問題』や
『公務員としての仕事観』（※主に市役所で出題）に関する
『あなたの考え』が、
①『一定のデータ・政策知識』をもとに
②『論理的に』（※しっかり筋道だてて）
③『適切な語彙力』（※住民の前に出して大丈夫か？）をもって
『文章化』されたものです。

↓一方で、

実際の本試験では、
受験生には様々な制約要因があり、思うように『本来の力』を発揮できません。

↓例えば

心理的な『極度の緊張』
肉体的な『長丁場にわたる試験勉強による疲労の蓄積』だけでなく、
時間的な『制限時間』の存在（60～90分）

↓また、

空間（環境）的な要因として、
『周りの受験生のペンの筆圧のうるささ』

あるいは

『よっしゃ！ずばりキタ～！！』等と、独り言をいう奇怪な受験生も存在し、
『本来の自分の力を発揮』するには不確定要素が多すぎます。

↓さらには、

『準備不足あるいは想定外のテーマ』だと、
パニックは極限に達し、頭の中は真っ白になります。

例えば、以下は、

H21年度『東京23区』の本試験の問題です。

教育の自由化の要望は、小中学校の学校選択制を採用する自治体を増やしましたが、
一方で学校選択制を取りやめる自治体も見られます。
こうした状況が起きる要因と、地域社会が持つ問題を説明した上で、
これからの学校と地域社会との関係について、あなたの考えを論じなさい。

どうですか・・・・・・（汗）

あるいは、

H21年度『千葉県庁』の問題はこんな感じです。

20年後の千葉県について、

「望ましくない姿」と、「望ましい姿」の二つを想定し、

「望ましくない姿」ではなく、できるだけ「望ましい姿」に近付けるためには、どのような施策が有用であるか、論じなさい。

いかがでしょうか・・・

このような強烈な問題が、

準備不足の状態では本試験に出題されたら、

標準的な受験生は、

ノックアウト寸前となります。(※1年間の択一の準備が一発で吹っ飛ぶかも・・・)

↓そこで

【受験生のとるべき戦略】としては、

↓まずは

①『ある程度出題可能性の高いテーマ』について、

事前にしっかり準備し、

答案の流れを、頭の中で『大量にイメージ化』しておくことが不可欠です。

(※もちろん出題可能性を分析し、優先順位をつけた上で。)

↓さらに

②『予想外の奇問・難問』が出題されても、

『落ちない程度の対応』が柔軟に出来るよう、

論文を作成する上での普遍的な能力である、

論理的思考力と語彙力を

当テキストの『答案例』や『私の講義動画』を通じて、

身につけておくことも重要です。

とにかく重要なことは、

『予想問題に対する万全の準備』と、

『想定外の問題に対する対処方法』をしっかりとマスターしておく事です。

↓では

具体的にどのような準備をすればよいのか？

次ページ以降で、

答案構成の基本的なパターンについて説明します。

【答案構成の基本パターン】 ※以下はあくまでも『一つの例』です。

問題に応じて柔軟に考えるべきで、絶対視しないこと！

問題文のテーマである『社会問題』について
(ex. 災害対策、フリーター問題)

↓まずは

①現状の分析をする。(いわゆる序論にあたる部分)

※論文冒頭の書き出しは、

『近年、〇〇が問題となっている』的に始めると書き出しやすい。

↓その後

- ・その問題を象徴する痛ましい事件、最近ニュースで騒がれた事件等を『簡単に』紹介し、読み手に問題の深刻さを『パッとイメージ』させる。

↓さらに

- ・各種データ等を『できるだけ』正確にあげ、客観的にも、問題の深刻さを説明する。

(ex. 非正規雇用の人数や割合、出生率、高齢化率、首都直下型地震の発生確率)

※なお、このデータや数値は絶対必要なものではないし、

『忘れた場合は無理に書かなくてもよい』が、

上記のような『常識レベルのデータ』は、本試験直前期には極力暗記すること！

※国家レベルの数値と受験先の自治体の数値の比較をしておく、

論文答案に『実際に書くかどうか』は別として、

今後の『面接対策』『集団討論対策』にも相当有益です。

※この現状の部分は、『問題文を多少修正して流用』できる事も多い。

↓次に、

②その現状がもたらす

問題点・弊害を2点程あげる。

※この状態を放置すると『こんな悲惨なことになる！』として、

解決の必要性を強調する。(ダラダラ書くのではなく、あくまでも端的に！)

↓そこで

③解決策の提示

↓その前提として

④【現状の背景・原因は】？ ※原因を究明しないと解決策はみえてこない。

本来、社会問題の背景や原因には複雑な事情があるが、

論文試験として答案に書くのは『1つか2つ』でよい。

それ以上書くと『答案が收拾つかなくなる危険性』があるので、

わかりやすい答案を作成するためには『捨てる勇気』も必要である。